

## ◇ 目 次

■平成18年度研究開発実施報告書（要約）	1
1. 研究開発課題	1
2. 研究の概要	1
3. 研究の目的と仮説等	1
4. 研究内容	2
(1) 編成した教育課程の特徴	2
(2) 実施した指導方法等の特徴	6
(3) 研究の経過	7
5. 研究の成果	9
(1) 実施による効果（児童生徒，教師，保護者への効果）	9
(2) 研究実施上の問題点と今後の課題	12
教育課程表（別紙1）	14
学校等の概要（別紙2）	14
I 研究開発の概要	17
1. 委嘱を受けた課題	17
2. 研究開発の実施時期	17
3. 研究のねらい	17
4. 研究開発3年間の計画	17
5. 研究組織	19
II 研究開発の経緯 2年次（平成18年度）	20
III 研究内容の概要	24
1. 研究主題設定の理由	24
2. 編成した教育課程の特徴	24
IV 研究開発の実際と成果1 幼・小接続期カリキュラムの開発	29
1. 幼・小接続期カリキュラムについて（研究の概要）	29
2. 開発したカリキュラムとその効果	32
3. 最終年次への課題	36
V 研究開発の実際と成果2 小・中接続期カリキュラムの開発	37
1. 小・中接続期カリキュラムについて（研究の概要）	37
2. 開発したカリキュラムとその効果	38
(1) 子どもの実態を把握することからの出発	38
(2) 「なめらかな接続」と「適切な段差」の考え方で，接続期を創設する	40
(3) 小・中接続期の時期区分とねらい	40
(4) 中学入学以降の「接続中・後期」における新しい取り組みの試行	41
(5) 中学入学オリエンテーションの実践	42
3. 各分野・教科における接続期研究	
① ことば・国語・英語	43
② 市民・社会科	45

③ 算数・数学	47
④ 自然・理科	49
⑤ うた・音楽科	51
⑥ アート・美術科	53
⑦ 生活文化・技術家庭	55
⑧ からだ・保健体育	57
4. 小・中接続期カリキュラムの開発	59
資料（各分野・教科の学びの概要）	61
VI 研究開発の実際とその成果 3 課題別研究の展開とその成果	81
1. 新しい学習の開発	81
(1) 新教科「つなぐ科」の開発	81
(2) 異年齢交流学習の展開	89
(3) なかま・創造活動・総合学習	95
2. 協働して学びを生み出す	99
(1) 協働プロジェクトの成果	99
(2) 学びの環境プロジェクトの成果	103
(3) 評価プロジェクトの成果	107
VII 研究開発の評価	111
1. 適時性の視点から	111
2. 観察・客観テスト・アンケートによる研究の評価	115
3. 研究実施上の問題点と今後の課題	117